

電気自動車充電インフラシステムサービス「smart oasis®」の開発・展開

社会のあり方を変えられるような仕組みを作りたい

地球温暖化対策のための有効な手段として、電気自動車やプラグインハイブリッド車への期待が高まるなか、日本ユニシスグループでは電気自動車の充電インフラシステムサービスである「smart oasis」を開発。官民共同の実証実験を通じて、機能の拡張と検証を重ねてきました。低炭素社会※実現に向けた新しい社会モデル構築へ。ICT活用による先進的な取り組みが、新たな可能性を着実に切り拓いています。



青森県本庁舎
(来庁者用駐車場)に
設置された充電スタンド



充電スタンドの利用イメージ



エネルギー事業部
営業三部 次世代ビジネスグループ

鈴木 康史

「共感」を得られたことで、最初の一步が踏み出せた

1999年の入社以来、一貫して電力業界のお客さまを担当してきましたが、2006年度からは電力業界のなかでも新規事業の企画・展開に携わることになりました。そこで出会ったのが、当時一般にはほとんど認知されていなかった「電気自動車」。国内で排出される温室効果ガスの2割近くを自動車の排気ガスが占めると言われるなか、走行中の排出量がゼロである電気自動車は、今後必ず普及していきだろう。そうなれば自ずと電気自動車用の充電設備や管理システムが必要になるはず。

そんな漠然とした発想から充電インフラシステムの企画に着手したものの、当初はなかなか具体的な事業モテ

ルを描けずいました。そのようななかで、千葉県佐倉市のユーカリが丘ニュータウンを開発する山万(株)の役員の方に企画案を説明したところ、「ユーカリが丘はCO₂ゼロエミッションをめざしており、将来的に電気自動車や充電スタンドが必要」と、こちらの構想に共感していただき、大いに勇気づけられました。その後、ユーカリが丘では実フィールドとしての技術検証を実施しましたが、今思うと手探りの状態でゼロからスタートした企画に対して、あのとき初めて「共感」を得られたことで、最初の一步が踏み出せたように思います。

2008年からは、充電スタンド・通信ネットワーク・センター側システムの三つから構成される「smart oasis」の開発に着手。2009年4月には経済産業省が募集する「EV・PHV※タウン」に東北地域で唯一選定された青森県での実証事業に、「smart oasis」が採用されることになりました。

世の中にないものを創出していく

青森での実証実験は、2010年2月末をもって無事終了し、利用者認証や充電スタンドの空き情報検索など、一連の機能の有効性が検証されました。その後も、「カーナビ等を活用した充電器設置情報・空き情報提供」や「利用者カードの連携拡大」、「24時間コールセンター対応」といった実証実験を重ねてきています。今後本格的な実用化をめざすうえでは、充電スタンド自体の普及や、エコポイントとの連携などによる利用者・事業者双方にとってのメリット提供が求められてくると思います。

これまでの取り組みを振り返ると、まだ世の中にない「充電インフラシステム」を開発する作業は、試行錯誤の繰り返しで本当に大変でした。技術的な難しさに加えて、実証実験のスケジュールの関係から短納期の開発が求められたこと、立ち上げ当初は社内の理解をなかなか得られなかったこと、実証実験の際の数多くのステークホルダーとの調整・・・など、さまざまな困難がありました。**そんななか私を含めプロジェクトのメンバーを支えていたのは、世の中にないものを創出していくことへのやりがい、社会のあり方を変えられるような仕組みを作りたい、という強い思いであったように思います。**これからも、今まで築き上げてきた土台をもとに、ICTによる「次世代モビリティ構築」に向けて、ただひたすら挑戦あるのみ！です。

用語解説

低炭素社会、EV・PHV

※印の用語については、巻末折り返し部分(P.42)をご参照ください。

P.42



社員やお客さまに貢献できる、快適なオフィス環境をつくっていくこと。社会に貢献していくことのできる、環境に優しいオフィスを創造していくこと。
日本ユニシス・ビジネス(株) 伊賀 友二郎



IT化が進んでも、利便性の追求だけでなく、人間の心を大切に、心にしみるような企業になっていって欲しいです。
日本ユニシス・アカウンティング(株) 清水 佳子